

日中太極拳大会におけるマネジメント手法比較研究 —ステークホルダー分析の視点から—

スポーツビジネス研究領域

5014A015-8 崔 潤発

KEYWORD 太極拳大会、ステークホルダー、顕著性、パワー、正当性、緊急性

1. 背景

太極拳は高齢化社会の健康維持・増進に有用であると指摘されてきた(金・黒澤, 2006)。日本武術太極拳連盟によると、太極拳の社会意義として、太極拳運動が多世代交流の促進、地域健康普及、街づくり、高齢者の介護予防に役立つことが期待されている。その中で、太極拳運動の普及にとって、太極拳大会の開催は大きな効果があると考えられる。

しかし、これまでスポーツイベントに関する研究は、ほとんど競技スポーツを中心とし行われてきた。また、スポーツイベントに関する国際比較研究は少ない。そこで、本研究は、太極拳大会を対象にして、太極拳運動が最も普及している日本と中国において、「全日本武術太極拳選手権大会」(以下、日本の大会)と「中国・焦作国際太極拳交流大会」(以下、中国の大会)という2つの代表的な事例を抽出し、それぞれの大会マネジメント手法と特徴を比較、分析する。

一方、スポーツイベントのマネジメント手法において、イベントにおけるステークホルダー(利害関係者)を認識することが経営者らにとってよりよい政策を出すために重要であると考えられてきている(Xue&Mason, 2011)。そこで、本研究ではステークホルダー分析の視点から両大会のマネジメント手法とその特徴を考察していくこととする。

具体的に日本の大会と中国の大会におけるそれぞれのステークホルダーを把握し、比較分析を行い、比較分析の結果に基づいて、2つの大会における独自のマネジメント手法とその特徴を明らかにする(研究目的)。

本研究を通じて、今後武術大会の国際経営比較研究の基礎的な理論と知識の構築に貢献することだけではなく、大会運営に実践的なインプリケーションを提示することができる。

2. 先行研究

①ステークホルダーの概念

本研究においてはスポーツイベントに関連する先行研究を参考にしたうえで、「太極拳大会におけるステークホルダーは、大会組織委員会及び大会に影響を与える個人、集団、組織である」と定義する。

②本研究における分析理論

研究指導員： 木村 和彦 教授

Mitchell et al. (1997) は中核組織とステークホルダーとの関係を表すために、ステークホルダーの「顕著性」という概念を提示した。ステークホルダーの「顕著性」とは、マネジャーが要望と目標が異なるステークホルダーに対し、優先順位付けを行う程度である。Mitchell et al. (1997)の研究により、ステークホルダーの「顕著性」がパワー(Power)、正当性(Legitimacy)、緊急性(Urgency)という三つの属性から構成されることがわかる(図1)。

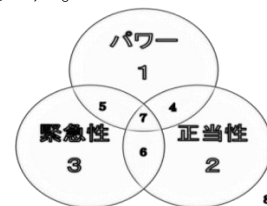


図1 Mitchell et al. (1997) 理論

さらに、ステークホルダーの属性により3つのカテゴリと8つの類型に分類されることができる(表1)。

表1 ステークホルダー分類				
ステークホルダー分類		パワー	正当性	緊急性
潜在的	1. 休眠型	○	—	—
	2. 裁量型	—	○	—
	3. 要求型	—	—	○
候補的	4. 支配型	○	○	—
	5. 危険型	○	—	○
	6. 依存型	—	○	○
決定的	7. 決定型	○	○	○
8. ノンステークホルダー		—	—	—

○あり - なし

3. 研究方法

①調査方法のデザイン

調査方法として文献資料調査及びインタビュー調査の両方を用いて、質的データの収集を行う。この方法の利点は、持続的にデータの収集と調査が出来るとともに、管理者の観点を入れることができることである。

②属性概念の操作化

本研究の操作化方法は3つの先行研究を参考にした(Friedman&Mason, 2004; Xue&Mason, 2011; Parent&Deephhouse, 2007)。その後、スポーツビジネスを専門とする教授2名、助手1名、大学院生7名で操作化の方法を確認し、修正を行った。

③データの収集

調査は予備調査(2014年)と本調査(2015年)を分けて、それぞれ2回を行った。

④データの分析

データの整理はNVivo10を用いた。分析結果の

有効性と信頼性を高めるために、本研究はデュアルコーディング方法（Crabtree&Miller, 1999；Bryman, 2003；Kvale&Brinkmann, 2009）を用いた。最終的な結果は操作化と同じように検討をし、確認を行った。

4. 結果

①大会について

大会の起源及び開催目的から見ると、日本の大会は太極拳運動の普及を中心として行われている。一方、中国の大会は太極拳運動の普及だけではなく、政府等がスポーツイベントを利用し、当該地域の経済発展を促す意図もあることが分かった。そして、大会の発展に伴い、日本の大会は競技面の向上を目指し、選手の予選制度を導入してきた。また中国の大会は大会開催地の知名度の向上を目指すため、選手への制限はほとんどなく、大会の参加者を積極的に応募しようとしていることがわかった。組織委員会の構成から見ると、日本の大会はすべて連盟の会員であることに對し、中国の大会はすべてのメンバーは政府の役人であり、試合以外に展示交流会、博覧会など様々なイベントも用意していた。2015年の課題において、日本の大会は実施種目及びスポンサーの獲得を課題としている。中国の大会は外国参加選手の維持及び拡大を課題としていることが明らかとなった。

②大会ステークホルダーについて

日本の大会におけるステークホルダーを分類した結果は行政部門 15%、民間部門 85%を占めていることが明らかとなった。



図2 日中太極拳大会におけるステークホルダー構成比率

中国の大会は、民間と行政それぞれ50%であった（図2）。全体的にみると、日本の大会は民間部門とのかかわりが多く、中国の大会が行政と民間両方とのかかわりが多いことがわかる。

そして、日本の大会におけるステークホルダーが合計13個であり、そのうち決定型は7個、支配型は5個、裁量型は1個であった。中国の大会におけるステークホルダーは合計10個であり、そのうち決定型は9個、支配型は1個であった。

ステークホルダー属性の統計を見ると、中国の大会は日本の大会と比べて、行政ステークホルダーの比率は高いが、民間ステークホルダーの比率は日本の大会の民間ステークホルダーの比率より低いことがわかった（表2, 3）。

表2「全日本武術太極拳選手権大会」ステークホルダー属性統計						
属性統計	パワー		正当性		緊急性	
	実用型	規範型	組織的	社会的	時間的緊急度	重要度
属性合計	8	7	13	2	7	9
民間比率	100%	71%	85%	0%	100%	100%
行政比率	0%	29%	15%	100%	0%	0%

表3「中国・焦作国際太極拳交流大会」ステークホルダー属性統計						
属性統計	パワー		正当性		緊急性	
	実用型	規範型	組織的	社会的	時間的緊急度	重要度
属性合計	10	5	10	5	9	9
民間比率	50%	20%	50%	0%	44%	44%
行政比率	50%	80%	50%	100%	56%	56%

5. 考察とまとめ

実践的な考察：日本大会の特徴として、運営自体はほとんど日本連盟が行うので、大会に対する外部からの影響は少ないことが推測される。また、大会スタッフはすべて連盟に所属する会員であり、太極拳に詳しい人達である。したがって、大会運営に関するノウハウを持ち、大会運営の効率は高いことがわかる。しかし一方、大会を運営する際に、スポンサーや行政からの支援など必要な資源の獲得が課題となっている。

中国の大会は行政部門が主導する大会なので、計画の執行力が強い。また、行政部門は政治的なパワーを利用し、大会を運営する際に必要な資源を提供することが多く、資源の獲得をしやすいことがわかる（国, 2011）。一方、大会組織委員会メンバーはすべて役人であり、必ずしも大会の運営に詳しい人とは限らない。そのため、大会運営の効率は低いという指摘もある（国, 2011）。

普遍的な考察：本研究の結果から、「スポーツの本質的価値⇔民間ステークホルダー」と「スポーツの手段的価値⇔行政（政府）ステークホルダー」という対応関係の仮説を提示したい。日本の大会は民間組織が主導する大会であり、スポーツの本質的価値を追求することを目的としている。しかし、このような目的だけを追求すれば、大会の運営は主催者独自の大会になりやすく、スポーツから生み出す社会的効果などは弱くなり、外部との関係も少なくなる可能性がある。中国の大会は行政部門が主導する大会であり、スポーツの手段的な価値を最大化するタイプの大会である。しかしながら、スポーツイベントから生み出す便宜だけを追求すると、スポーツ本来の目的を失うリスクがある。そのため、本研究の結果を通じて、スポーツイベントの開催目的価値が異なれば、イベントにかかわるステークホルダーの関心及び影響力も異なることが可能であることがわかった。そして、スポーツイベントが提供し、目的とする価値が本質的価値なのか手段的価値なのかによって、イベントを経営する中核組織が重視するステークホルダーとの関係は異なってくる可能性があると考えられる。

